

おすすめ本紹介

◆テーマ◆

読書週間におすすめ

●アーモンド

ソン・ウォンピョン著 矢島暁子訳
祥伝社

感情を感じられず、他人の感情もわからない、十六歳の高校生、ユンジエ。赤ちゃんの時から、笑うこともなく、何かを怖がることもなかった彼は、病院で「失感情症」と診断されます。周囲から「変わった子」と白い目で見られますが、母と祖母だけは彼に愛情を注いでくれました。母は、感情がわからない息子に「喜」「怒」「哀」「楽」「愛」「悪」「欲」を言葉で暗記させ、なんとか普通の子に見えるようにと、涙ぐましい訓練までしたのです。

しかし十五歳の誕生日のこと、目の前で祖母と母が通り魔に襲われ、ユンジエはひとりぼっちになってしまいます。そんな時に現れたのが、ゴニでした。彼は物心ついた時から親の愛を知らず、激しい感情をコントロールできないため、周囲から「怪物」と呼ばれるような少年だったのです。

●夜が暗いとはかぎらない

寺地 はるな 著
ポプラ社

赤い頭巾の「あかつきん」は、暁町にある「あかつきマーケット」のマスコット・キャラ。その「あかつきん」が、「あかつき祭り」の会場で、子どもたちに配る飴を叩きつけ、暴れた挙げ句に失踪してしまいます。ところがその後、暁町のあちこちに出没し、人助けをしているらしい、という噂。おまけに、そのしっぽにさわると幸せになる、という都市伝説まで生まれて…。

この本は、さまざまな葛藤を抱えながら暁町に暮らす人々を描く13の短編で構成された連作短編集です。それぞれの短編の主人公は、必ず他の短編に登場しています。「あー！この人、あの話に出てきた人だ。」とすぐ気づける話もあれば、なかなか気づけない話もあり。登場人物の「つながり探し」も楽しめます。

●弟は僕のヒーロー

ジャコモ マッツァリオール 著
関口 英子 訳 小学館

著者のジャコモ・マッツァリオールは、イタリアに住む19歳。5歳のとき、両親から弟が生まれると聞かされ、大喜びしました。それまで姉と妹に囲まれていたので、男兄弟がほしかったのです。しかもその弟はどうやら「特別」な子らしいと聞かされ ジャコモはスーパーヒーローのような弟を思い描いてその誕生を待ちました。やがて弟が生まれ、ジャコモは「特別」の意味を知るようになるのですが…。

著者であり、この本の主人公であるジャコモが、弟と共に作成したショートムービーがきっかけで誕生した本です。そのムービー“THE SIMPLE INTERVIEW”は、YouTubeで見ることができます。